令和４年 12 月２日

嬉野市議会
議長　辻　浩一　様

議会広報編集特別委員会
委員長　諸上　栄大

議会広報編集特別委員会報告書

令和４年第３回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名「議会広報の編集発行に係る調査研究」

調査の理由

私たち議会広報編集特別委員会は、議会の内容を市民に分かりやすく伝え、幅広い年代の方々に手に取っていただき、読んでもらえるような内容やレイアウトの作り方を常日頃模索しており、今回は議会だよりコンクール等で入賞された経緯のある、和歌山県かつらぎ町と大阪府八尾市議会にて調査研究を行った。

調査の概要	「かつらぎ町　議会だよりの基本姿勢及び編集について」		
調査日	令和４年 11 月１日		
調査場所	和歌山県かつらぎ町議会		
対応者	かつらぎ町議会　議　長	溝北　好一	氏
	議会だより編集特別委員会委員長	東芝　弘明	氏
	委員	松岡　宏行	氏
	委員	羽根　祥起	氏
	委員	表具　弘	氏
	委員	大山　希世	氏
	かつらぎ町議会事務局　局長	女良畑　正幸	氏
	主査	木下　絵梨佳	氏

◇かつらぎ町の概要

和歌山県の北東部、伊都郡の西部に位置し、北部に和泉山脈、南部に紀伊山地を仰ぎ、町の中心部を紀の川が東西に流れ、面積は151.69㎢、東西14.7km、南北29.3kmで、人口は15,972人（令和4年9月末時点）である。フルーツの町としても有名であり、柑橘類や桃、特に柿が有名である。子育て支援にも力を入れており、18歳までの医療費や学校給食費の無償化が実施され、最近は近隣都市からの移住者も増えてきている町である。

◇かつらぎ町議会だよりの概要

平成11年5月1日に創刊されたかつらぎ町議会だよりは、A4版で平均すると24ページで構成されており、表紙・裏表紙及び、中央見開きはカラーの2色刷りである。発行部数は6,500部であり、年4回（5月、8月、11月、2月）発行されている。費用は、令和4年度当初予算額で2,154千円である。また、町村議会広報全国コンクールの8位入賞や奨励賞を受賞した経緯がある。

【編集方針】

議会だよりを通じて、議会活動及び、議会の姿を町民に伝え、「リアルにわかりやすく」を基本とし、町民との間において双方向の通信となるよう8つの基本原則が決められている。また、開かれた議会を目指し、より市民に親しまれる議会だよりにするため、傍聴アンケートや紙面上で町民の意見を募集し、寄せられた意見は一人の意見でも重視して対応し、積極的に掲載する努力を行い、写真とともに町民コメントを掲載している。

【編集体制】

委員長1名、副委員長1名、委員4名で構成される議会だより編集特別委員会で編集が行われている。申し合わせにより、前任者の半数が委員会に残り、他の委員の選出方法は立候補である。また、議長がオブザーバーとして出席し、議会事務局職員にも委員と同じ権限が付与されている。

【紙面でのこだわり】

町民に親しみやすい広報誌の作成を行うため、「がんばる人紹介」という企画を立て、町内の各種団体や個人活動、学校関係と連携し小・中学生の活動をインタビュー形式で紹介している。また、紙面の案内役として、かつらぎ町の有名な柿をモチーフに「かきかあちゃん」というキャラクターを作成し、紙面上で使用している。

◇委員会の意見

議会は争点のある世界であり、積極的にかつリアルにわかりやすく議会を公開する紙面づくりを住民の視点で編集する努力が必要である。かつらぎ町議会では、レイアウトの作り方もまずは、ラフレイアウト（レイアウトの骨格のようなもの）を作成されていた。その後、ラフレイアウトを基に委員会でレイアウトの再検討が行われている。レイアウトをしっかりと決め、見出しやリード記事、議案の内容を入れ込んでいき、立体的な紙面を作る方法や住民参加の紙面づくりとして、議員自らが取材に赴き、住民の声や各種団体・個人の活動内容を積極的に紹介するなどの取り組みは、私たち議会広報編集特別委員会にとって、大変参考になった。今後の委員会活動に活かしていきたい。

調査の概要　「八尾市　議会だよりの基本姿勢及び編集について」
調査日　　令和4年11月2日
調査場所　　大阪府八尾市議会
対応者　　八尾市議会　議会だより編集委員会　副委員長　松田　憲幸　氏
　　八尾市役所　市議会事務局議事政策課　　係長　松村　晃年　氏
　　副主査　菱井　正人　氏

◇八尾市の概要

大阪府の中央部東寄りに位置し、西は大阪市に、北は東大阪市に、南は柏原市・松原市・藤井寺市に、東は生駒山系を境にして奈良県に接している八尾市は、大阪市の近郊都市として発展し、平成13年4月1日に特例市、平成30年4月1日に中核市になり人口は262,371人（令和4年9月末現在）である。中小企業を中心とした「ものづくりのまち」で、全国トップシェアの出荷額で伝統ある歯ブラシ生産をはじめ、金属製品や電子機器など最先端技術に至るまで、匠の技が光る活力にあふれたまちである。

◇八尾市議会だよりの概要

昭和33年5月20日に創刊された八尾市議会だよりは、年間5回（定例会号として年4回、臨時会号として1回）発行されている。発行部数は143,500部でA4版の規格で表紙と裏表紙はフルカラーで印刷し、その他のページは2色刷りである。また、平成11年3月定例会号からは、市政だよりと合冊するなどの

発行形態を変え、現在に至っている。
【編集方針】
　『伝える紙面づくりから、伝わる紙面づくりへ』として、分かりやすい紙面づくりを目指し、議会に対する興味・関心を持っていただくための『入り口』として、議会の他の媒体につなげる役割を持っている。また、議会で議決したことが身近な暮らしにつながっていることを伝えるような記事や、議会に関する豆知識などが得られる記事、用語の説明・注釈を付けるなどして、議会からの意欲的な情報発信が感じられるよう、文字・空間・写真・イラスト・図などのバランスを取りながら紙面づくりを行っている。

【編集体制】
　副議長を委員長として、委員は無所属を除く各会派より１名を選出されている。委員会は７名で構成されており、編集方針に基づき大まかな原稿案を議会事務局が作成している。その原稿案を基に、委員が見やすく伝わりやすい紙面を検討し、記事の配置場所やページ数、見出しをどうするかなどの協議を重ね、レイアウトや文章を決定し、紙面に掲載する取材や写真撮影が行われている。

【紙面でのこだわり】
　「市議会×高校生プロジェクト」や「がんばるあなたを応援プロジェクト～YELL～」などの企画を立ち上げ、写真を表紙に活用したり座談会の様子を掲載するなど、委員である議員が実際に取材や撮影を行っている。また、二次元コード（QR コード）を一般質問の記事に掲載し、各議員がどのような内容の質問を行ったのか、市民が映像を視聴できるような手法も取り入れられている。

◇委員会の意見
　若い年代の方に対して、議会をもっと知ってもらう取組として、高校や大学との連携による紙面づくりは非常に興味深いものがあった。また、「議会だより」を議会に対する興味・関心を持っていただくための『入り口』として活用されていた。このように「議会だより」から議会のあらゆる媒体につなげ、市民に身近な議会であるための仕掛けづくりが行われている点についても、非常に参考になった。「議会だより」をたくさんの人に手に取っていただき、読んでいただくことが、少しでも議会を知っていただくきっかけとなる。「議会だより」は単なる広報誌ではなく、市民と議会を結びつけるパイプ役として重要な役割を持っていることを再認識することができた。